

（端裏書）

「延宝九年酉ノ歳ニ御巡見様御宿申上候覺
竹嶋之様子御尋被成候ニ付此一通書申候

勝意甲戌

春写し置

もの也」

一 大猷院様御代五十年以前阿部四郎五郎様御取持を以
竹嶋拝領仕、其上親共より御

目見江迄被為仰付難有奉存候御事

一 彼島^江年々船渡海ミち之魚之油并串鮑之
所務仕申候御事

一 竹嶋^江隱岐国嶋後福浦より海路百里余も

可有御座由海上之儀ニ御座候へハ慥ニハ知レ不申候御事

一 竹嶋之廻り拾里余御座候御事

一 嚴有院様御代竹嶋之道筋ニ式十町計廻り

申小島御座候、草木^茂無御座岩山^{ニ而}御座候

廿四五年已前阿部四郎五郎様御取持を以

拝領船渡海仕候、此小島^{ニ而茂}ミち之魚之油

少宛所務仕候、右之小島^江隱岐国嶋後

福浦より海上六十里余^茂御座候御事

五月十三日